やすらぎ

特養居住者
佐々木アキノ 筆

第2号

発　行　平成１０年１２月２５日
社会福祉法人やすらぎ会
編　集　広報委員会

～初めての出会いだけど、心はひ孫のよう～
〈沢内中学校生徒と交流する特養居住者〉

◆特別養護老人ホームぶなの園　◆沢内村デイサービスセンター
◆沢内村在宅介護支援センター　◆ホームヘルプサービス事業
沢内村大字太田第２地割１３５番地　☎０１９７－８５－２３２２

◆沢内村高齢者生活福祉センターかたくりの園
沢内村大字大野１７地割１４０番地１　☎０１９７－８５－３３８８

やすらぎ会に今後期待すること
―各界代表者より―

沢内村長
高橋一雄

『要援護高齢者と家族の福祉の向上を願って』

本村では、高齢者が長年住み慣れた地域社会の中で自宅において家族と共に暮らし、健康で明るい生活ができるよう、健康の保持増進対策、生きがい対策、在宅福祉対策や保健、福祉施設の整備等に努めて参りました。

しかし、年々高齢化が進んでいく中で、介護を必要とされる方も比例して増加してきています。またニーズも多様化していく状況で在宅福祉だけでは対応できないケースも年々増加し、「在宅福祉」と「施設福祉」が一体となった取り組みが必要とされ、三ヵ年の年月と約一一億円を超える財政投資をし、特別養護老人ホームぶなの園、併せてヘルパーステーション、デイサービスセンター、ショートステイと福祉サービスの総合的な窓口としての在宅介護支援センターを建設したところであります。

これらの施設とかたくりの園の管理運営を「みんなの心が生かされる園をみんなで」の決意から設立された「社会福祉法人やすらぎ会」に本年四月より委託し、事業を開始したところであります。

特別養護老人ホームぶなの園においては、地域交流スペースを大いに活用し、入所者と地域がより密着する家庭と家族環境を提供し、生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上、家族の身体的、精神的な負担の軽減が図れるよう期待しています。

また、介護支援センターについては、福祉の相談窓口としての役割を担い、高齢者が安心して、健康で明るい生活を送れるよう支援し、在宅の要援護高齢者の介護者等に対して、在宅介護に関する総合的な相談に応じ、在宅の要援護高齢者及びその介護者の介護等に関するニーズに対応した各種の保健、福祉サービスが総合的に受けられるよう、関係行政機関、サービス提供機関等との連絡調整等の便宜を供与し、要援護高齢者及びその家族の福祉の向上が図られるよう、役職員一丸となり設立の決意の通り、皆さんに愛される施設、在宅サービスの提供を期待しています。

民生委員総務
当法人理事
高橋重清

『村民に期待される施設づくりを』

村民待望の高齢者総合福祉施設が開所されて八ヵ月経過しました。職員の大部分が未経験者で、大変ご苦労されているものと思われますが、特養をはじめ、広汎な事業に積極的に取り組んでいる皆さんに、心から感謝を申し上げるものであります。

思い起こせば、光寿苑が開設されたのが昭和五二年でした。当時の先輩たちは、女性委員を中心にボランティアとして様々な行事に参加して参り、私たちもいつの日か、わが村にもこうした施設ができますことを念願しつつ、今日まで継続して参りました。

今年四月の特養開設は、長年にわたる福祉関係者の夢が実現されたもので、高齢者をかかえる家庭はもとより、全村民の大いなる喜びであり、私たち民児協としては村、関係機関、各種福祉団体と協調し、積極的に支援していきたいと考えています。

先般、研修会の話し合いの中で、ぶなの園に入所体験してみようと意見が出ました。これは、施設利用者やそこで働く職員の苦労を理解する上で必要と考えられますので、ぜひ実行したいと思います。

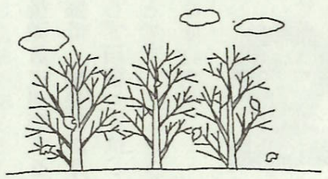
次に話題として出たのが、週二、三回位リハビリの開設ができないものかとの意見が出て、将来に向けて要望すべきであろうと決まりました。

このことについては、以前から病院にリハビリ部門の設置を村民が要望しているところですが、最近、ぶなの園利用者の家族から私たちに相談される中に、このことが多く聞かれます。

私は、本来医療と福祉は一体化が望ましいと考えておりますが、高齢者福祉からのリハビリの内容と役割は異なるのかも知れません。

社会福祉法人やすらぎ会には、生活に不自由な方に、残された機能を可能な限り維持できる援助としてリハビリをやって頂きたいと思います。

発足してまだ一年足らず、解決しなければならない課題が種々あると思いますが、村民に信頼される施設づくりを目指して頑張ってください。



婦人会代表
久保キエ

『長生きをして良かったと感じる施設を』

長高齢化社会への対応の中で待望されていた高齢者総合福祉サービスの拠点ぶなの園」の開所は、女性団体にとっても特に関心の高い問題でした。

それは、平成八年九月「沢内村特別養護老人ホーム建設にあたり村民一〇〇人に聞きました」アンケートを、村内の五婦人団体である村婦人連絡協議会、JA女性部、商工婦人部、生活改善グループ、母子寡婦福祉協会が協力して村民の方々のご意見を聞く調査活動を始めたからです。

アンケートは、集約して報告書にまとめ、行政、関係機関、協力した方々に送付致しました。

その中で特記したい点は、要望として「家族のような生活の場」、「誰でも平等で差別されない施設」、「公平な審査での入所の必要性」また「プライバシーの守られる施設、自立できるようになったら家庭復帰できるような特養ホームであって欲しい。若者が就職して希望の持てる職場であることを願っている。皆が気軽に訪問できるホームであればいい。痴呆老人を閉じ込めるような形ではなく対応して欲しい。地域との交流、ボランティア活動の振興など住民も考えなければならないと思う。」など多くの声が寄せられていました。

その後、五女性団体の代表が、建設中の現場を見学し、各居室の入口に扉が無いことから「より良い特養ホーム建設のために、居室の入口の改善と、運営に当たり、入居者と家族との対等な立場での話し合いを定期的に持って、その要望の反映されるよう申し入れる。」という内容を行政に提出しました。その結果、とりあえず厚地のカーテンを入口に付けて頂いたという経緯があります。

村民皆の協力により、介護する人も高齢者も共々に心暖かく「長生きして良かった」と感ずるような、「生命を守った沢内村」らしい福祉施設になって頂きたいと願っているこの頃です。

やすらぎ会に今後期待すること
－利用者、家族、実習生より－

特別養護老人ホーム
「ぶなの園」居住者
阿部リヨ

『明るい部屋が欲しい』

済生会病院から、六月にぶなの園に来ました。ここの住民の一人となり半年が過ぎようとしているわけですが、ここには同じ北上から入所している人や、知人もいて淋しくはありません。

また、寮母、寮父も活発な動きが見られると思います。男性（寮父）女性（寮母）と一緒になり、特に差もなく働いているのには、毎日感心しています。

ただ一つだけ残念だなと思うことがあります。それは居室が変わってしまったことです。

入居してきた頃は、日当たりが良かったせいか、居室全体が明るかったのですが、今の居室は全体的に暗く感じます。

今後職員に期待することは皆（寮母・寮父）が今までと変わらず頑張って欲しいということです。

特別養護老人ホーム
「ぶなの園」居住者の家族
内記トヨ

『安心して農業にいそしめます』

今年も冬になってしまいました。振り返ると、追われるような毎日でした。

義父千代見が老い、社会人としての常識も失念の状態になってしまい、このままではどうなることやらと、心震える思いでした。幸いに「ぶなの園」ができて、迎えて頂けることになり、助けられました。

故深沢村長以来、『命尊重の村』として、村民が大事にされてきたこと、そして今さらながら沢内に生活できることの喜びを、しみじみと感じさせられました。

義父千代見が皆様の真心に支えて頂いて、安心し日々を過ごしていられることを本当に有り難く思い、また農業にいそしむことができる幸せを感じております。

かたくりの園
冬期居宅サービス利用者
石井多満

『もう少し長くいたい』

「かたくりの園」と思うだけで嬉しくなります。

毎年、喘息と神経痛に悩まされ泣き暮らした冬も、かたくりの園に行ってから幸せです。

夜はゆっくり安心して眠れるし、日中は、各部落の人たちと会えるし、楽しい毎日です。仕事とはいえ、職員の人たちの心のこもった親切は、口では言い表わせないくらい有り難いことです。

しかし、一〇月末になると朝晩の冷え込みが増し、膝が痛み出し、眠れない日が続きます。だから、一一月に入ってすぐにでも、かたくりの園に入れてもらいたい。また春も同様でもう少し暖かくなるまでいれればいいなと思います。

東京育ちの私が、沢内に来て五五年になります。本当に沢内に来て良かったと思っています。

ホームヘルプサービス
利用者
高橋廣

『待ちどおしい週二回の訪問』

ヘルパーさんの訪問は週二回と決まっていることでも、来てくれなかったらなあと余計な心配をしているのが現状です。

私の場合は、妻の介護を理由にかたくりの園を利用し、冬季の居住もさせて頂きました。その頃でも、自宅にいた時と同様にヘルパーさんが来て世話をしてくれました。

妻が特養に入所してからは独居老人となってしまいました。入所当初は、仕事らしいことができると思っていたのに、まったく思うようになりません。妻も同じように年をとったし、身体は私よりも不自由だから、もっともっと弱音を出しているだろうなと気にかかる昨今です。

なんとかあまり手のかからない老人になるよう努力します。ホームヘルパーさん有り難う。風邪をひかないよう祈ります。

デイサービスE型
利用者の家族

『落ち着いた姿にひと安心です』

義母が「ぶなの園」デイサービスにお世話になることを最初は抵抗がありましたが、このままではますます進行が早くなってしまうことが心配で、思い切ってお願いしました。

本人も、最初は仲間が少ないので「かたくりの園の方が良い」と言っていましたが、今では喜んで出かけます。

症状が現れ始めた時は、まさかと思っていましたが、日を追うごとに物忘れがひどくなり、周囲の人たちに迷惑をかけることが多くなりました。そこで、周りの人たちにも知ってもらい、理解して協力してもらっています。こういう場合は、恥と思わず隠さずに話すことが大事だと思いました。

一年前は先が思いやられるようなことばかりでしたが、「ぶなの園」に通所するようになってからは落ち着いてきました。それも規則正しい生活と指導のおかげと心から感謝しております。

西和賀高等学校福祉コース
三年　高橋真由子

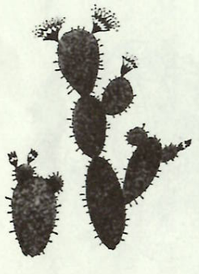
『お年寄りに励まされて』

私たち福祉コースの三年生は、ヘルパー同行訪問と、ぶなの園での施設実習を行いました。

ヘルパー同行訪問では、五軒のお宅に訪問し、掃除や調理、血圧測定や散髪なども行いました。一人暮らしの方の話し相手になったり、心の支えになってあげたりするヘルパーの仕事の大切さと大変さを感じました。

施設実習では寮母さんの一日の仕事に沿って、リネン交換、オムツ交換、食事介助等を行いました。

思いやり、気配り、目配りの大切さを学ぶことができました。どちらの実習でも、笑顔で接してくれるお年寄りの方に、逆に励まされているようでした。



～在宅高齢者福祉活動の拠点として～
在宅介護支援センター
本格始動

他の事業とともに四月にスタートし、これまでの訪問等の活動によって、少しずつではありますが在宅介護支援センターの存在や機能を、村民の皆さんに知って頂くことができてきたように思います。

一一月には第一回の運営協議会、相談協力員会議が開催されました。どちらも支援センターを運営していく上で非常に重要な役割を果たすものであり、二四時間相談受付け体制と併せ、いよいよ支援センターが本格始動しました。

第一回運営協議会 開催される

在宅介護支援センター、その役割は、一言で言うと次のようです。

在宅で生活され介護を必要とする高齢者、ご家族を中心に、地域住民の高齢者福祉に関する様々な相談を二四時間受け、そのニーズ（要望）に的確に応えていく。

その過程で病院やその他関係機関との連携、協力が必要であれば調整する。さらにニーズに応えるサービスがなければ、これを必要とするご家族等と共に考え、実現の方向を考えていく。

この役割を果たしていくには、支援センター職員二人でできる得るものではありません。

さらに支援センターは高齢者の保健、医療、福祉を総合的に把握し、サービスを共に検討、提供していくという重要な任務があります。

そのため「沢内村在宅介護支援センター運営協議会」の設置が村の「運営要綱」にあり、役割は次の通りです。

「支援センターの事業計画の検討、及び事業実施上の諸問題について協議を行うこと」

これら重要な任務を持ち運営委員が選ばれ、一一月はじめ法人理事長から委嘱状が渡されました。

運営協議会の実際的活動はこれからですが、構成員は次の方々です。

【運営協議会構成員】

千葉道子　北上地方振興局
高橋義雄　住民福祉課長
古澤邦廣　健康管理課主幹
増田　進　沢内病院長
高橋典成　社協事務局長
和泉　盈　民生委員
上野米子　ぶなの園施設長

相談協力員ご紹介

在宅介護支援センターのいわば応援団として在宅で高齢者を介護する家族等と接触する機会が多い地元商店他から、地域的偏りのないよう支援センターの相談協力員をお願いしました。

相談協力員とは、地域のより身近な立場から援助を必要としている高齢者やその家族の状況を把握し、具体的な援助に結びつけるパイプ役として支援センターに協力して頂くものです。

各行政区から一名ずつ（川舟地区は二名）、計一四名の方にお願いし、去る一一月一七日に第一回相談協力員会議を開催しました。

在宅での介護に関する相談は、支援センターで受付けておりますが、身近な相談協力員の方に相談された場合も、協力員から確実に支援センターに連絡を頂き、私ども職員が相談に応じます。

どうぞお気軽にご相談ください。

在宅介護支援センター　相談協力員

地区名	氏名	住所	電話	備考
東大野	黒渕　公一	大野21－42	85－2794	農業
大野	照井　安子	大野6－13－2	85－3193	商店
新町	佐井　和子	新町　9－23－2	85－2177	商店
前郷	佐々木　コウ	前郷4－28－1	85－2336	民生委員OB
鍵飯	刈田　ケイ子	太田19－40	85－2097	農業
太田	米沢　幸子	太田4－33	85－3339	理容店
猿橋	近藤　アキ子	猿橋31－33－50	85－2577	設備会社
弁天	高橋　幸	猿橋25－29	85－2071	農業
泉沢	米沢　清	猿橋7－34－3	85－3031	民生委員
長瀬野	照井　智子	猿橋19－14－4	85－3372	農業
川舟	石井　リキ	川舟35－5	85－3322	主婦
川舟	佐々木　安夫	川舟24－1	85－5053	老人クラブ
若畑	吉田　一男	川舟18－13－1	85－5470	農業
貝沢	細川　洋一	川舟3－460	85－5172	行政区長

相談協力員会議の様子

☎直通電話開設☎

在宅介護支援センターに、新しく直通の電話番号が開設されました。

今後はこの新しい番号で相談を受付けることになりますが、土・日・祝日や夜間（一七時三〇分～翌朝八時三〇分）は、支援センター職員が不在のため、これまで通りぶなの園の電話番号で受付けることになります。

なお、休日や夜間は支援センター職員に代わり、ぶなの園の寮父母が対応させて頂くこととし、二四時間体制で相談の受付けを行っていきます。

相談電話番号は、裏面をご覧ください。

編集後記

第１号は、法人内の各事業や職員の紹介を中心に構成しましたが、第２号では外部からの当法人への声を特集してみました。

村民の皆さんからの期待の大きさを感じ背筋を伸ばしながらの編集でした。

次号は来年３月の発行予定です。福祉の情勢に関するコーナーや、地域の方の声なども盛り込んでいきたいと考えておりますので、ご意見、ご要望がありましたら下記広報委員までご連絡ください。

良い年末、年始をお過ごしください。

〈やすらぎ会広報委員〉

佐藤陽子　高橋真希
高橋　渉　高橋みどり
佐々木愛子

ボランティアを募集します

これからの高齢者福祉活動は、利用者、職員だけでなく、家族、ボランティア、地域の方々のご協力があってこそより良いものとなります。

お気持ちのある方、是非ご一報ください。

☆特養住民の話し相手
☆衣類の洗濯
☆創作活動（職員）の手伝い
☆掃除（窓ガラス拭き）など
☆ホーム喫茶の手伝い
☆買物ツアーなどの付添い

この他、趣味を生かしたボランティア活動をしたいとお考えの方、ご一報をお待ちしています。

介護用品の展示、購入の仲介も行っております。
ぜひ、ご覧においでください。

在宅での介護のお悩みは

在宅介護支援センター まで

○支援センター直通（平日８：３０～１７：３０）

８５―２３１９

○土・日・祝日、夜間（１７：３０～８：３０）

８５―２３２２

※特別養護老人ホーム「ぶなの園」寮父母対応

お気軽にどうぞ